

■2007年（1月～6月）活動報告■

募金贈呈式

6月29日（金） 事務所にて



- ◆立正佼成会唐津教会では5月20日に『第38回青年の日』・第13回チャリティーフェスティバルを虹の松原広場（唐津市）において開催されました。当日は1,800人の皆様が来場されバザーやフリーマーケット、バンド演奏、NPO/NGO団体の活動紹介、平和のつどいなどが行われました。佐賀県支部も、児童労働に従事して学校に行けない子どもたちがたくさんいることをお伝えしました。
- ◆多くの皆様から寄せられた浄財のうち5万円を、ユニセフのアジア4カ国（フィリピン・カンボジア・東ティモール・ネパール）における初等教育支援にと、『青年の日』実行委員長のエドムンド・林田さん・唐津教会長の島津さん・渉外部長の楠さんが事務所を訪れて手渡されました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

募金贈呈式

6月28日（木） 事務所にて

- ◆佐賀郡東与賀町立東与賀中学校では、日本ユニセフ協会からの学校募金の呼びかけに応じてユニセフ募金に取り組みました。
- ◆各クラスの奉仕部のみなさんが中心となって活動をした結果4,778円の募金が集まり、3年の生徒会奉仕部代表と担当の先生が事務所までお届けくださいました。
- ◆この金額は下痢による脱水症から命を守るORS（経口補水塩）約800袋分に当たることを知り、「秋にも頑張って取り組みます。」と言っていました。



第6回親子交流会inプラザ

>>> あした天気にな～れ！～つながる手と手 つながる想い つながる未来～ <<<
>>> ユニセフのテーマ：手をつなごう 小さないのちのために <<<

6月24日(日) iスクエアビルにて (JR佐賀駅南口)



ミニカー2個で
ORS14袋分になります



よちよち歩きの赤ちゃんが
何度もトライ



地雷をふまないように
気をつけて歩こう



水汲みのために
学校に行けない子がいるんだって



皆さんのおかげで
大きな成果が出ました

- ◆梅雨空にもかかわらず1200人を越える親子連れがプラザを訪れて、色々な催しを楽しみました。
- ◆ユニセフのブースでは、すごろく遊び・ミニカーミニバザー・パネルの展示などをしました。「ユニセフすごろく」ではよちよち歩きの赤ちゃんから高校生まで多くの人に参加し、ユニセフの活動について遊びながら学びました。
- ◆ミニバザーコーナーでは、「ORSを1000人の子どもに」を目標にして、支援者から提供いただいたミニカーのバザーをしました。佐賀の子どもたちがミニカーバザーに協力してくれることが世界の子どもたちの命を守ることにつながることを説明し、多くの協力をいただきました。子どもの頃を懐かしんで、まとめ買いをしてくださるお父さんもおられました。おかげさまで目標を大きく超えて、ORS1800袋分の募金になりました。

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン 品物贈呈式

6月10日(日) ジャスコ大和店にて

- ◆毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれています。この日に、買い物をし、レジ精算時に受け取った黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、購入金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物で寄贈されます。
- ◆佐賀県支部でも、ユニセフのBOXを用意していただき、皆様にご支援をお願いしております。おかげさまでA4コピー用紙5500枚寄贈されました。事務局では、そのコピー用紙の代金分を募金とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。
- ◆イオンでは、お客さまとともに環境保全・社会貢献活動を考え行動する日として、毎月11日を「イオン・デー」と制定。「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」はその活動の一環です。ジャスコ大和店ではこの1年で460万円分のレシートがキャンペーンBOXに入ったそうで、それぞれのボランティア団体へコピー用紙で贈呈されました。またイオン九州では60万本の植樹をはじめ、佐賀城下ひなまつりでは期間中清掃活動、東与賀のクリーク清掃活動なども行っているそうです。



ユニセフ出前授業

6月3日(日) 佐賀市立鍋島中学校にて



～共に生きる、世界の子どもたちと～

- ◆3年生(236名)の皆さんは、総合的学習の時間に「社会のために、そして人のために役立つような課題追求を行い、情報を発信しよう」のテーマのもとに学習をしています。今回は課題作りの為の出前授業でした。
- ◆人口クイズから食糧分配ゲームへと繋げ食糧問題への気づきになるようにしました。さらに、ビデオなどを通して栄養の足りない子どもたちの他にも、様々な困難な状況下で生きている子どもたちがいることを紹介して問題提起としました。フリー参観日でしたので保護者の方々にもご覧いただきました。
- ◆この後、それぞれの課題を設定してさらに学習を深め、情報発信へと展開されます。

学習を終えて

- ◆私が最初に感じたことは「私は本当に恵まれている」ということです。日本という国に生まれた私は、あたり前のように学校に通い、あたり前のように勉強しているけど、決してこれはあたり前ではないと分かりました。世界中には様々な状況の中の子どもたちがいます。生きていくために働かなければいけない子どもたちのことを「かわいそう、大変そう」で片付けてはいけなくと強く思いました。地球人の一人として私に何ができるのか、それを考えることが大切だと思いました。そして、どんなに小さなことでもいいから、自分にできる行動を起こすことが、世界中の人と共に生きていくということではないかと思いました。

募金贈呈式

5月29日(火) 佐賀市文化会館



- ◆コープさが生活協同組合2007年度第17回通常総代会の席上において、日本ユニセフ協会佐賀県支部の太田記代子常務理事に「東ティモール指定募金」が贈呈されました。
- ◆コープさが生協では、九州の生協と一緒に2004年度から「東ティモールの女性と子どもたちのための識字教育能力開発プロジェクト」を支援しておられます。組合員の皆様から寄せられた546,147円もの募金は東ティモールの女性と子どもたちのために役立たせていただきます。ありがとうございました。

佐賀銀行「書き損じはがき・使用済み切手」贈呈式

5月28日(月) 佐賀銀行本店

- ◆佐賀銀行では各支店の窓口に黄色の「思いやりBOX」を置き、書き損じはがきと使用済み切手の回収をお客様に呼びかけておられます。
- ◆寄せられたはがきと切手を三等分し、NPO法人地球市民の会・佐賀ユネスコ協会・日本ユニセフ協会佐賀県支部の三団体に寄贈されました。



ユニセフパネル展 & ユニセフグッズ頒布

5月27日(日) 第23回鹿島ガタリンピック会場にて
(鹿島市七浦海浜スポーツ公園)



◆絶好のガタリンピック日より恵まれた広大な有明海の干潟で、第23回鹿島ガタリンピックが開催されました。19の国や地域から集まった1,500人の選手が全身ドロコになって競技を楽しみました。会場は35,000人の観客で終日賑わいました。

- ◆ボーイスカウト鹿島第1団・伊万里第1団・白石第1団の皆さん、それに嬉野高校3年生の皆さんが募金箱を抱えて会場をまわり、ユニセフ募金への協力を呼びかけました。
- ◆ボランティアの皆様、募金に協力して下さった皆様、ありがとうございました。



韓国釜山外大の選手も
飛び込みで応援



ボーイスカウト鹿島第一団・白石第一団の皆さんの皆さん



事務所訪問

5月24日(木) 佐賀県支部事務所にて

- ◆佐賀郡東与賀町東与賀中学校3年生の生徒さんが、総合的な学習の時間～Search for Life～に途上国の子どもたちのことについて、またユニセフについて調べるために事務所を訪問されました。
- ◆脱水症から命を守る経口補水塩やマラリアを運ぶ蚊から家族を守るための殺虫処理をほどこした蚊帳などの値段が、自分のお財布から出せるくらいのお金で買える事を知り驚いていました。
- ◆ビデオ「私たちが忘れないで」「ユニセフと地球のともだち」の中に出てくる子どもたちの様子を真剣な表情で見て、これからの学習の課題を絞り込みました。



学習を終えて

- ◆子どもたちがタバコ工場で働いたりカーペットを織ったりして、学校に行けないことを初めて知った。「働く子ども」についてもっと詳しく調べたい。
- ◆少しのお金で子どもたちの命を助けることができるということが分かった。これからは募金活動に参加しようと思った。「児童労働」という言葉を初めて聞いたのでこのことを詳しく調べたいと思う。

ユニセフグッズの頒布&パネル展示

5月20日(日) 唐津市虹の松原広場

第38回『青年の日』

第13回チャリティーフェスティバル ～愛を集めよう 愛を届けよう～

- ◆食料不足や貧困・紛争など様々な困難な状況に苦しむ人々に対して無関心ではいけない、すべての命が尊ばれる世界を願おうと、クロマツの林を吹き抜ける風がさわやかな虹の松原広場で、多くの市民の皆様のご参加のもとに開催されました。
- ◆フェスティバルは、ユニセフの「アジア4カ国における初等教育普及事業」・地域社会福祉協議会への賛助・NPO/NGO団体支援のために実施され、バザーや佐賀県内外7つのNPO/NGOの活動紹介、バンド演奏等があり賑わいました。
- ◆「青年の日」は、立正佼成会の青年部が地域社会や世界の平和を祈り、行動される日です。

第14回母の日ユニセフチャリティーバザー

5月12日(土)午後2時～3時 佐賀玉屋デパート南館西側アーケードにて

今年のテーマ <<10,000人の子どもにポリオ経口ワクチンを>>

- ◆会員さん・支援者の皆様からお預かりした400点余りのバザー品を仕分けし、日頃から鍛えた主婦の経済感覚で値段を付けていきました。
- ◆オープンと同時に押すな押すなの大盛況。「新聞でバザーのことを知りました。」「毎年このバザーを楽しみにしています。来年もしますか?」とおっしゃるお客様もいらっしゃいました。1時間ほどでほぼ完売しました。
- ◆バザー品を快くご提供くださった皆様、送料までご負担いただいて宅急便で送ってくださった皆様、企業や団体でバザー品集めに取り組んでいただいた皆様、仕分け・値付け・販売など色々な形でお手伝いくださったボランティアの皆様、そしてお買い上げくださった多くのお客様、会場をご提供くださった玉屋デパート様、ありがとうございました。
- ◆お陰をもちまして、売上げ総額は15万2700円にもなり全額ユニセフ募金とさせていただきます。ありがとうございました。



値付け風景



2時のオープンを今か今かと待たれるたくさんのお客様



募金活動&ユニセフグッズの頒布

5月3日(木) 今右衛門古陶磁美術館前にて(有田陶器市会場)



- ◆第104回有田陶器市～人と器の新しい出会い～の5日目、各地からの買い物客20万人の人出で賑わう今右衛門古陶磁美術館前で「ソロモン諸島地震・津波緊急募金」とユニセフグッズの頒布を行いました。
- ◆今年も元気な佐賀大学の学生さんたちがボランティア参加してくださり、リュックを背負い、帽子に手袋という陶器市定番ファッションで行き交うお客様に、ソロモン諸島地震緊急募金への協力やユニセフグッズへの協力を呼びかけました。
- ◆募金協力をしてくださるお客様から「がんばってください。」と励ましていただいたり、小学生から「ユニセフ募金、学校でもしたよ。」と言ってかわいいお財布から10円玉を取り出して募金してもらったりして、元気をいただきました。



佐賀大学生ボランティアの皆さんの声

- ◆「子どもたちのために…」とお願いをしていたけど、募金をもらったときは嬉しくて今日の募金活動は「自分のため」になりました。



- ◆今日この活動に参加していなかったら家でぼんやりと一日をむだに過ごしていたと思うけど、たいへん貴重な体験をさせていただいて来てよかったです。
- ◆貴重な体験をしてよかったです。募金活動は初めての体験でした。

- ◆今まで募金箱にお金を入れたことはあったけど、募金箱を持ってお願いしたことはなかったです。逆の立場にたつて、お金を入れてもらうことがどんなに大変なことかよく分かりました。その分、お金を入れてもらったときはとても嬉しかった。これからは、募金活動があってもっと協力しなくては…と思いました。



ユニセフパネル展

4月22日(日) 第22回花みずき茶会にて(佐賀市金立山いこいの広場)

- ◆雨に洗われた緑のお山や花みずきの美しさを楽しみながら、「第22回花みずき茶会」が開催されました。待合の一角にユニセフのパネルを展示し、お客様にご覧いただきました。

募金贈呈式

3月27日(火) 佐賀市大和町北部児童センターにて

- ◆「北部児童センター子どもまつり」実行委員のみなさんは、2月17日にフリーマーケットを開きました。当日はたくさんのお客さんで賑わい、フリーマーケット担当の皆さんも大忙しでした。
- ◆本日はフリーマーケットの利益の一部を「世界の友だちのためにつかってください」募金でできる支援の例を聞いた子どもの声
- ◆ぼくたちが頑張ったフリーマーケットの募金で、2,000人以上の子どもたちを助けることができるので、ユニセフ募金は大事なんだなあと思いました。



たくさんのお客さんで賑わった 子どもまつり実行委員のみなさん
フリーマーケット

JA女性部 愛の募金贈呈式

3月12日(月) 佐賀新聞社にて

JA佐賀県女性組織協議会では、昭和54年の国際児童年を契機に「愛の募金」活動に取り組まれています。「愛の募金」活動は今年度で28年になり、今年も「世界の子どもの幸せのために役立ててください。」と157,197円の募金を中尾会長に手渡されました。





ユニセフ写真展「アグネス・チャンが見た子どもたち」

2月24日～3月6日 佐賀市立図書館2階ロビーギャラリーにて

<第一部> イラク・モルドバ視察記録 ～危機にさらされる子どもたち～

<第二部> スーダン・ダルフール地方視察記録 ～忘れられた子どもたち～



2月25日の佐賀新聞Begin講座「アグネス・チャン講演会」会場写真展の広報やグッズ頒布、募金活動をしました。



スーダン・ダルフール地方のコーナーでは、「忘れられた戦場～アグネス・チャン、スーダンからの報告～」(NHK:BSDキュメンタリー録画)を熱心にご覧になる方も多かったです。

- ◆園児たちはボランティアの説明に耳を傾け熱心に聴いていました。
- ◆ご年配の方から保育園の園児まで、多くの皆様に見ていただきました。
- ◆佐世保市から来てくださったボランティアさんもおられました。



来場者の声

- ◆スーダンの状況を知らなかったのが知ることができてよかった反面、民族紛争の根深さに無力感を感じました。
- ◆モルドバの人身売買についてはほとんど知らなかったのが驚きました。もっと情報があればよりよかったと思います。自分でも調べてみます。
- ◆ユニセフに参加することは、世界の現在の状況をリアルタイムで知ることのできる最高の機会です。今、自分が何をすべきか、何が必要なのか考えさせられました。現状は目を覆いたくなるくらいの悲惨さですが、そこから目をそらさずに多くの人たちにこの現状を伝えていくことは重要なことです。この写真展に来て一人でも「何かをしたい」と思った方がいれば素晴らしいことだと思います。
- ◆いま、日本では戦争という厳しい出来事を忘れてしまっている人も少なくないと思います。しかし、世界の裏側では同じ人間が苦しんでいるのが現状だということを改めて知りました。私自身も世界の子どもたちに協力できることをして少しでも役に立てればいいなと思いました。

ボランティアさんの声

- ◆今回、初めてボランティアに参加させていただき自分の考えが定まりました。また、忘れかけていたボランティア「人を助けたい！」という情熱がわいてきました。本当に参加してよかったと思います。いつか必ず自分の目で世界の状況を見てきたいと思います。ありがとうございました。

ユニセフ出前授業・募金贈呈式

2月22日(木) 佐賀市立諸富北小学校にて

- ◆6年生の皆さんはユニセフ出前授業の後、更に探究活動をして、学習発表会で地域の方々に世界の子どもたちの様子を発表しました。同じくユニセフ出前授業で「世界の子どもたちのいのち」について学習した4年生の皆さんも一緒に、地域の方々にユニセフ支援を呼びかけました。
- ◆ボランティア集会で、子どもたちや地域の皆さんの温かい思いでいっぱい募金や書損じはがき、使用済み切手等をいただきました。
- ◆子どもたちは、ORS(経口補水塩)やビタミンAの安さに驚き、自分たちの行動がたくさん世界の子どもたちへの支援につながることを喜んでいました。



ユニセフ出前授業

2月14日(水) 杵島郡江北町立江北中学校にて

- ◆1年生(103名)の皆さんは総合的な学習の時間『ビッキータイム』において、「平和について考える」という活動名で学習を進めています。
- ◆今日は、「紛争と子どもたち、そしてユニセフ」というテーマでユニセフ授業をしました。子どもと武力紛争、元少年兵の話、スーダン・ダルフール紛争の話などをもとにして、この地球上で自分たちと同じ年齢の子どもたちが、今も、想像もできないような混乱の中にあるということを知りました。
- ◆この学習を2年生になってからの長崎平和学習へと発展させ、更には3年生での沖縄平和学習へと繋いで、平和についての考えをより確かなものへと深めていきます。

ユニセフ出前授業・募金贈呈式

2月7日(水) 長崎県佐世保市相浦小学校高島分校にて



◆高島分校の14人の皆さんは、総合的な学習の時間に「かきの養殖を体験しよう」というテーマで学習をしました。
昨年の4月に初栄丸水産の方や保護者の方々の協力を得て、帆立貝にかきの種付けをしました。それをかき筏に付けて九十九島の海で養殖しました。11月に大きくなったかきを収穫して「相浦産業まつり」で販売し、その益金79,810円を「世界の子どもたちのために使ってください。」と寄付されました。
歓迎の演奏:14人の心をひとつにして「上を向いて歩こう」

◆ユニセフ授業では「水」「栄養」「働かされる子どもたち」をテーマに学習しました。ORS(経口補水塩)について、スペシャルドリンク作り、水がめを使っての水運び体験、ビタミンAの話、カカオ農園で働かされる子どもたちのこと等について学習しました。

◆学習を終えて

今日は、遠く佐賀県から高島分校に来てくださってありがとうございました。
今まで私たちは、ユニセフについて言葉はなんとなく知っていたけど、どんな活動をしているのかはくわしく知りませんでした。でも、今日先生方が教えてくださったのでよく分かりました。
安全な水が飲めないために病気になり、世界では3秒に1人の割合で子どもが死んでいると聞いてびっくりしました。日本ではそんなに死なないからです。
そんな子どもたちも1つ3円のビタミンAのカプセルやORSがあれば命が助かることが分かりました。
そして、世界には同級生くらいの子どもののに、学校に行けなかったり、朝から夜まで働かなければならなかったりと、いろいろな状況でも負けずにがんばっている子どもたちがいることが分かりました。

私は暖かい家に住み、お父さんお母さんと一緒に暮らせて幸せなんだと気づきました。
なんだか今まで言っていたことがわがままだったような気がします。
ユニセフはそんな子どもたちを助ける活動をしているんですね。
さっき、私たちが寄付したお金をその子たちのために使ってあげてください。

かきの販売のとき、なかなか売りきれなくて大声を出して「安いですよ。買ってください。」と何度も言いながら公園の中を歩きました。
がんばって私たちが売り上げたお金を世界の困っている子どもたちのために役立ててもらえるので、とてもうれしいです。
私たちのお金で世界の友だちのことを助けてください。
心と体を私たちのように元気にしてあげてください。
みんなの夢をかなえてあげてください。お願いします。
私も今からもっと楽しい気持ちで学校に行こうと思います。(6年生)

募金贈呈式

2月5日(月) 三潯郡大木町立大溝小学校にて

- ◆6年生の皆さんは2学期の総合的学習の時間に「何かができる...私たちにできるボランティア」というテーマで学習しました。その中で世界の子どもたちの様々な現状について調べました。
- ◆学習の後、6年生が中心となり全校の皆さんに、ユニセフ募金や書損じハガキ集めなどを呼びかけた皆さんの協力をしていただきました。
- ◆全校朝会で、6年生の代表が皆さんに活動の報告をし、佐賀県支部へ手渡しがありました。